

都市再生整備計画(第5回変更)

ほうじょう 豊穰しろいしちょう のまち白石町ちく セントラル地区

さが 佐賀県 しろいしちょう 白石町

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

豊穡のまち白石町セントラル地区(佐賀県白石町)	佐賀県	市町村名	白石町	地区名	豊穡のまち白石町セントラル地区	面積	975 ha
-------------------------	-----	------	-----	-----	-----------------	----	--------

計画期間	平成18年度 ~ 平成22年度	交付期間	平成18年度 ~ 平成22年度
------	-----------------	------	-----------------

目標	
大きな目標：人々が安全で、安心して暮らせる笑顔のまちづくり	
目標1	災害に強く、安全・安心な生活環境基盤の整備
目標2	産業振興支援による、安心して働くことのできるまち
目標3	皆が集い、笑顔がこぼれるまちづくり

目標設定の根拠	
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>白石町の紹介</p> <p>白石町は、平成17年1月1日、白石・福富・有明の3町が合併した新しい町で、西に杵島山、東に有明海に囲まれた農水産物の生産が盛んな町である。本町は、その昔から干拓事業が行われ、農地の殆どが干拓で生まれた。干拓特有の肥沃な土壌条件と広大な農地を生かした農産物は、豊潤な有明海で養殖される海苔とともに全国的にも有名である。</p> <p>目標1について</p> <p>平成17年8月、町内の商店街で火災が発生した。この火災により、全半焼合わせ4軒が焼失した。現在は、独居老人の世帯も増加しており、消火体制の強化は以前にも増して重要になってきている。また、先に記述したとおり、本町の東部は有明海に面している。この海は私たちに有明海特有の海産物を与えてくれる母なる海であるがその反面、台風の襲来時は高潮、堤防の決壊など、過去に大きな災害に何度も見舞われた苦い経験がある。このため、行政として防災体制の確立が必要不可欠である。さらに、当町は、207号線及び444号線の2本の国道が通っており、その沿線には公共施設や住宅密集地が多く張り付いている。このため、公共施設間や集落間を結ぶ道路及び207号線に接続する道路については、地域住民にとって非常に重要な道路である。しかし、道路幅員も狭く離合もしく、住民が安心して通行できる状況ではない。</p> <p>目標2について</p> <p>本町で生産される水稲・玉葱・レンコン・イチゴなどは、肥沃な大地と温暖な気候、また、なにより生産者の努力により高い生産性や高品質を誇る。また、有明海で養殖される海苔は、全国的に有名で、佐賀県は生産高も日本一であり本町もその生産の一翼を担っている。しかし、集落営農の推進をはじめとする農政改革により農業の大転換期を迎えていることや、近年の漁場環境の変化により海苔の生産量や価格が安定しておらず、今後の第一次産業は先行きが不透明で、住民の暮らしにも不安が募る状況である。</p> <p>目標3について</p> <p>日本人は元来お祭りが好きな人種といわれている。お祭やイベントには人が集い、笑い声が絶えない癒しの空間でもある。本町においても、温暖な気候に恵まれた自然を生かしたイベント・企画等の交流事業が行われてきた。しかし、平成17年1月の合併により、各地域のイベント等の再編が行われ、中止若しくは廃止となったイベントもある。このため、今後の白石町の核となるイベント等確立及び支援を行う必要がある。</p> <p>総論</p> <p>白石町総合計画が平成17年度に策定された。その際行われた町民へのアンケートで、「あなたは、これからも白石町に住み続けたいと思いますか。」の問いに対し、「これからもずっと住み続けたい」の回答が73.0%にのぼり、郷土への愛着が顕著に現れている。住民が「これからもずっと住み続けたい」まちから、「これからもずっと住み続ける」まちに変えるためには、地域の「人々が安全で、安心して暮らせる笑顔のまちづくり」が必要である。</p>	
課題	
合併直後の町であり、今後、目標を達成するためには、住民の一体感の醸成が必要不可欠となってくる。公共施設の整備基準の均等化及び核となるイベントの確立が課題である。	
将来ビジョン(中長期)	
本町の人口は昭和35年の人口総数43,976人をピークに年々減少し、平成12年10月時点で、28,391人(国勢調査)、平成17年10月時点においては、27,058人(平成17年国勢調査速報値))となっており近年はゆるやかに減少している状況である。また、世帯数については、平成12年10月時点で、7,382世帯(国勢調査)、平成17年10月時点で7,402世帯と微増している状況であり、少子高齢化・核家族化が進んでいることが裏付けられる。「人々が安全で、安心して暮らせる笑顔のまちづくり」を達成することが、人口減少に歯止めをかけることにつながる。	

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
火災戸数	戸	地区内で発生した火災による被災戸数の減少	平成17年中の被災戸数に対し、その半減を目指す。	11	H17	5	H22
町内産物直売所の年間売上額	千円	地産地消の促進及び特産物のPR	町内3ヶ所の産物直売所の売上額5%増加を目指す。	259,000	H17	271,950	H22
イベントの参加者数	人	笑いがこぼれるイベントの開催及びイベントを通じた特産物の紹介	平成17年度開催の歌垣の郷ロードレースと、べったんこ祭の参加者数の5%増加を目指す	19,946	H17	20,943	H22

都市再生整備計画の整備方針等

豊穡のまち白石町セントラル地区(佐賀県白石町)	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針(災害に強く、安全・安心な生活環境の整備)</p> <p>平成17年8月に白石町の商店街で発生した火災は、全焼3軒半焼1軒の大惨事となった。これまでも防火及び消火体制については検討されていたが、安全で安心な生活を守るためには、更なる防火及び消火設備の充実を図ることが必要である。</p> <p>防災行政無線は町民への緊急時の連絡手段として最も重要である。現在使用している防災無線については、稼動してすでに25年が過ぎており、故障しても交換部品がない状況にある。実際、屋外拡声器について作動しないものがあり緊急の整備が必要である。また、最近は独居老人の世帯も増加しており、防災行政無線を通じ、災害予防の放送等を実施し、あらゆる災害の未然防止に努める。</p> <p>公共施設間や集落間を結ぶ生活道路及び本町の基幹道路である国道207号線に接続する道路については、道路幅員も一定ではなく、狭く走りにくい道路となっている。地域住民が安心して通行できる道路、歩行者にとって安全な道路を構築することが、町の活性化にもつながる。</p> <p>近年、未成年者の誘拐事件などが多発し社会的な問題になっているが、本町も例外ではない。小中学生・高校生の通学路として利用の多い道路の幅員拡幅や歩道などを整備し、防犯灯及び街路灯を設置することにより、子どもたちや通行者をあらゆる危険から守り安心で安全な道路を構築する。</p> <p>町の中心部に公園を整備することにより、緊急時における町民の避難救援活動の拠点となるオープンスペース及び町中心部における延焼防止のための遮断帯を確保し、災害に強い町づくりの推進に寄与することが出来る。なお、白石中央公園については、白石町地域防災計画の中で、緊急輸送時における緊急ヘリポートとしても位置づけられている。</p>	<p>地域生活基盤施設(基幹事業/緊急伝達情報システム構築) 地域創造支援事業(提案事業/消防格納庫・詰所等の整備事業) 地域創造支援事業(提案事業/消防ポンプ・積載車整備事業) 消防格納庫・詰所等の整備事業(関連事業) 消防ポンプ・積載車整備事業(関連事業) 緊急時給水対策整備事業(関連事業)</p> <p>道路(基幹事業/町道西郷線道路改良事業) 道路(基幹事業/中郷第3踏切整備事業) 道路(基幹事業/白石12号線道路改良工事) 道路(基幹事業/白石10号線道路改良工事) 高質空間形成施設(基幹事業/照明施設設置事業) 地域創造支援事業(提案事業/防犯灯設置事業) 地方道路交付金事業町道白石5号線歩道設置事業(関連事業) 地方道路交付金事業町道新規道路整備事業(関連事業) 地方道路交付金事業町道中郷揚田線道路改良事業(関連事業) 地方道路交付金事業町道横手第11号線道路改良事業(関連事業)</p> <p>公園(基幹事業/白石中央公園整備事業)</p>
<p>整備方針(産業振興支援による、安心して働くことのできるまち)</p> <p>しろいしの特産品であるれんこん・たまねぎ・イチゴ・海苔等の農産物、海産物を広くPRすることにより「しろいしブランド」が確立され、本町産物の有利販売へと結びつける。また、町の特産品「れんこん」をテーマにし、都会の人々と町民とのふれあいを通じた地域間交流や農産物のPRを図る。</p> <p>このような産業支援により、安定的な農産物・海産物の需要が生まれ、ひいては、商工業を含め町全体の活性化につながり、安心して働くことができるまちとなることが期待される。</p>	<p>まちづくり活動推進事業(提案事業/しろいしブランド確立対策事業) まちづくり活動推進事業(提案事業/ふれあい交流事業(れんこんの穴から未来が見える)) しろいしブランド確立対策事業(関連事業) ふれあい交流事業(れんこんの穴から未来が見える)(関連事業)</p>
<p>整備方針(皆が集い、笑顔がこぼれるまちづくり)</p> <p>本町の幹線道路である国道207号線沿いには、店舗等の集積が進み、公共施設や住宅も集中し、生活拠点地域を形成している。新町まちづくり計画にも、この地域を「人ともとのにぎわいゾーン」と位置づけている。春に中央公園で開催する日本陸連公認の「歌垣の郷ロードレース大会」は、町民はもとより県内外から約3,000人の参加者が集う県内有数の大会であること、また、秋にふれあい郷で開催する「しろいし秋まつり」も、もちをテーマとした珍しいイベントで広域的な来訪者を望めることから、これらを町の核のイベントと位置づけ、さらに充実させることにより、交流人口の拡大や中心商店街への相乗効果でにぎわいを取り戻し、皆が集い自然と笑顔がこぼれるような活力あるまちづくりを進めていく。</p> <p>現在、海岸保全施設で造成された樋門周辺部においては、第一種漁港の新有明漁港整備が行われており、本町の漁業振興の拠点として位置づけられている。さらに、周辺に広がる有明海の干潟は全国的にも有名でムツゴロウなど有明海特有の生物が生息している。この豊かな自然を活かし、特産物の消費都市との地域間交流の拠点として水辺空間施設の整備を進める。</p> <p>また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの採用によりすべての人に優しく使いやすい空間としたい。</p>	<p>公園(基幹事業/水辺公園整備事業) 公園(基幹事業/白石中央公園整備事業) まちづくり活動推進事業(提案事業/イベント支援) 新有明地区地域水産物供給基盤整備事業【特定漁港漁場】(関連事業) イベント支援事業/しろいし秋まつり(関連事業) イベント支援事業/歌垣の郷ロードレース大会(関連事業)</p>
<p>その他</p> <p>合併してまだ2年余りの本町にとって、各地域の格差是正を行い、行政サービスの充実により住民のメンタル面の向上を図ることは、町民の一体性を育むうえで必要不可欠である。本町は、このまちづくり交付金事業を、新しい白石町の未来を希望のあるものとするべく活用したい。</p>	

都市再生整備計画の区域

豊穰のまち白石セントラル地区(佐賀県白石町)	面積	975 ha	区域	白石町大字東郷、今泉、福田、廿治、遠江、横手、築切、戸ヶ里、牛屋、新明の一部
------------------------	----	--------	----	--

